

| | | | | | | |
|-------|-------|------|-----------|---|------|------|
| 指定校番号 | 28013 | 学級活動 | 児童会・生徒会活動 | ○ | 学校行事 | 別紙様式 |
|-------|-------|------|-----------|---|------|------|

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|-----------|----|-------|--------|------|
| 学校名 | 広島市立舟入小学校 | 校長 | 大久保幸則 | 生徒指導主事 | 北浦昌義 |
|-----|-----------|----|-------|--------|------|

取組事例名 『あったか言葉の輪を広げよう』

取組のねらい 『児童主体で笑顔の学校に』

・けんかやいじめをなくし、舟入小学校の全児童が笑顔で楽しく安心して学校生活を送ることができるようにする。

取組の具体的内容 『あったか言葉・標語発表会』

- 企画運営委員が、代表委員会で「あったか言葉・標語発表会」の取組の提案をする。
- 提案を受けて、各学級で友達から言われてうれくなる言葉を話し合い、「5・7・5」（「5・7・5・7・7」）の標語を決める。
- 色やイラストを加えて、標語をカードに記入する。
- 各学級の代表1名が、各学級の標語を「全校朝会」で発表する。
(発表時、プロジェクターで標語を映し出す。)
- 各学級で「あったか言葉・標語」を利用して、児童の主体的な仲間作りを進める。
- 学級の標語カードは、発表後運動会まで体育館前に掲示する。運動会後は各学級に掲示する。
- 生徒指導便り・学校ホームページを通じて、地域・保護者にも発信する。



取組の課題・創意工夫 『学級での取り組み』

- ・学校朝会での発表後の学年・学級での取組が重要になってくる。
- ・「あったか言葉・標語」を学級の毎月の取組に取り入れ、児童に主体的に取り組ませることで、自分たちで学級を動かしているという意識をもたせることができる。
- ・いじめ防止宣言を活用していくことも今後の課題である。

取組の成果（効果） 『分かりやすさ』

- ・本取組の発表会は9月に行った。全校児童アンケートの集計結果では、「相手の気持ちを考えた言葉使用をすることができる」は、7月に84%だったのに対し12月には88%となり、4ポイント増加した。
- ・スローガンのようにみんなが言いやすい標語がたくさん発表され、今後の実践に生かしやすい。
- ・発表で終わらず、学級で活用していきたいという思いをもたせることができる。
- ・学級の中であったか言葉について意識する児童が増えてくると考えられる。
- ・学年に応じた標語の発表を行うことができる。

今後の展開 『PDCAサイクルを学級活動・児童会活動に取り入れて』

- ・今後は、PDCAサイクルを意識して取り組ませていきたい。特に重要な部分はCheckとActionの部分である。児童が自らチェックし見直しをかけて、次の改善策を考えていかなければならない。その繰り返しによって、主体的な児童会活動、特別活動を行うことができると考える。
- ・折にふれて「今のは、あったか言葉だね」とプラスの声かけをしていくことも重要である。

他校へのアドバイス 『学級の児童にあった手立てを』

- ・発表後の学級での取り組みについては、はじめの段階はまず児童から出てくるあったか言葉の「量」に意識を向けるとよいが、児童の育ちが感じられるようになれば、あったか言葉の「質」に焦点を向けると、取組が形式的なものにならないと思う。